

# 号外

# 琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2014年(平成26年)

8月17日(日)

発行所 琉球新報社  
郵便番号 〒900-8525  
那覇市天久905番地  
©琉球新報社2014年

# 掘削作業に着手

# 辺野古台船を設置

## 防衛局 16カ所で調査予定



米軍キャンプ・シュワブ沿岸でオレンジ色のスパット台船を海に浮かべる作業員ら。17日午前7時40分、名護市辺野古(仲本文字撮影)

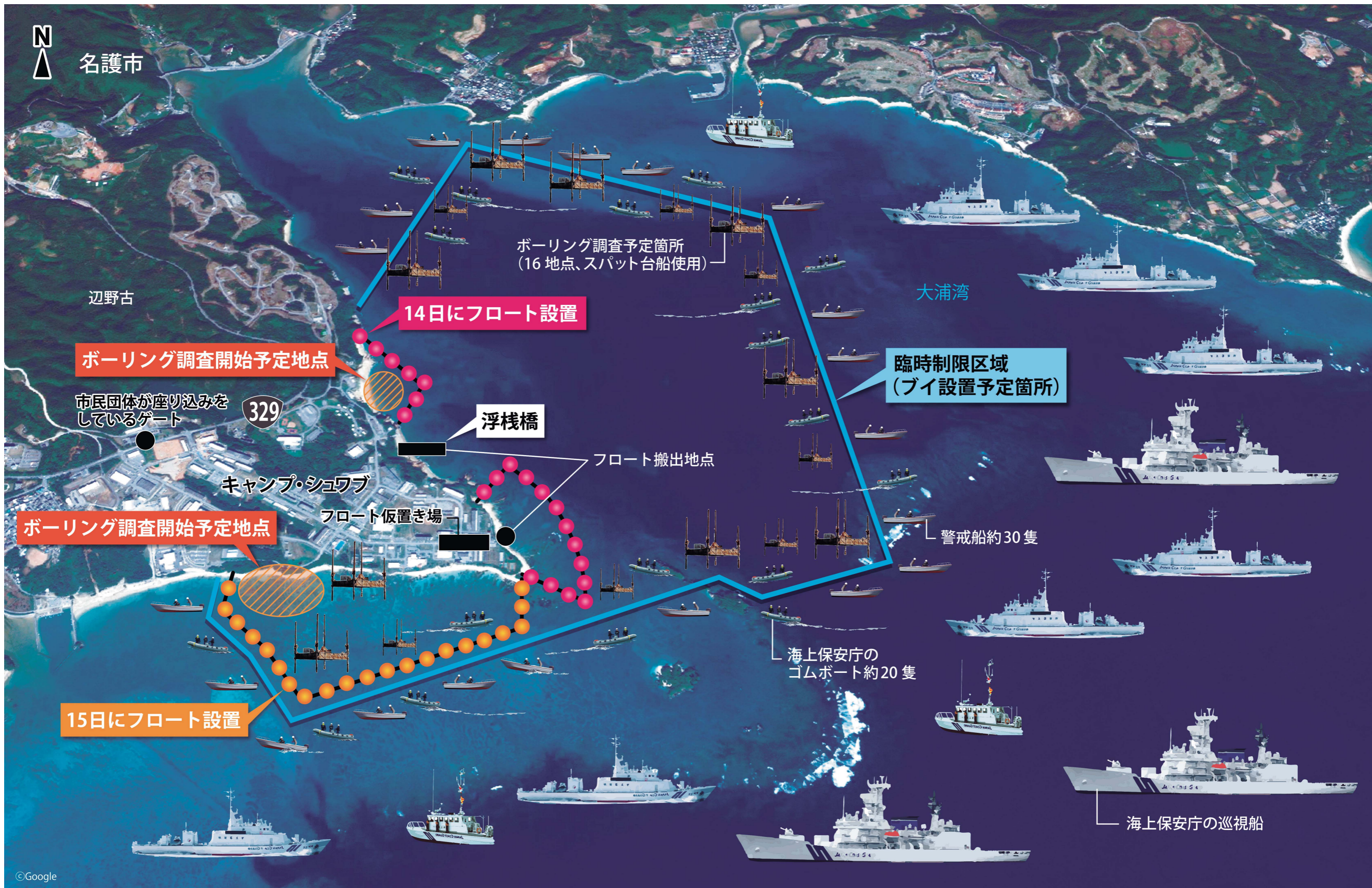
沖繩防衛局は17日午前7時25分、米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設に向けた海底ボーリング調査に使用するスパット台船の設置作業を開始した。作業を終え次第、海底を掘削するボーリング調査を本格的に始める見通し。辺野古沖で掘削調査のための足場を設置するのは、市民らの反対運動などで最終的に作業が中止された2004年以来となる。

防衛局は同日早朝、移設予定地に隣接するキャンプ・シュワブに搬入していた小型のスパット台船の資材をクレーンでつり上げてシュワブの海上部分に移動させた。沿岸部は立ち入り制限水域を明確にするための浮標灯(ブイ)や浮具(フロート)で囲われており、移設に反対する市民や報道関係者が近づけないようにしている。スパット台船を海底に固定する作業が完了すれば、掘削を開始する準備が整う。

防衛局は「作業の効率化を図るため」として、当初予定していた海底ボーリング調査のための単管足場(やぐら)の設置を取りやめ、全てスパット台船を利用した調査に切り替えた。

海底の掘削調査地点も21カ所から16カ所に縮小した。水深の浅い9地点に設置するとしていた単管足場のうち、4地点を小型のスパット台船による調査、5地点を沿岸部付近の陸域での調査に変更した。

スパット台船は4本の支柱で作業台を支える簡易な構造物。単管足場に比べ港湾内での移動が容易だ。防衛局はボーリング調査期間を11月30日までと設定している。



### ブイ設置後の動き



海底ボーリング調査に向けフロートの設置作業が始まったキャンプ・シュワブ沿岸海域  
14日午後4時40分ごろ、名護市辺野古



キャンプ・シュワブの旧ゲート前で新基地建設反対の声を上げる市民ら14日午後4時5分、名護市辺野古



連結されるフロートとオイルフェンス15日午後3時55分、名護市辺野古



辺野古沖での調査開始に向け、オレンジ色の足場の台に設置されたボーリング機=16日午後5時ごろ (毎日新聞ヘリから花城太撮影)



海上で抗議行動をしたカヌーを止める海上保安庁の隊員=15日午前8時30分、名護市辺野古

詳細はあすの紙面をお読みください

ryukyushimpo.jp